

台風の時には

検査部技師長 堀田多恵子

台風一過で、真夏のような暑さから一気に気温が下がり、鱗雲も虫の音も渡る風までも秋を感じるようになりました。

秋をもたらした台風14号は、小笠原近海で発生し9月5日には台風になり、17日～19日の3連休の中日には非常に強い勢力のまま鹿児島市に上陸しました。強風域の半径が750キロまで達する大型な台風であったこともあり、台風が接近する前から風が強まり、九州だけでなく関東付近まで台風の東側の地域に記録的な大雨を降らせながら九州を縦断し、最終日の夜半まで九大病院の木々の葉を大きく揺らす強い風をもたらしていました。

この14号にはもうひとつ、ナンマドルという名前が付いていました。2000年から日本を含む14か国が加盟している台風委員会が決めた固有の名称を付けることになっているそうです。加盟国の固有文化の尊重・連帯の強化・防災意識の向上のために14か国のそれぞれになじみのある名前を10個持ち寄り、計140個の名前を順番に用いており、ナンマドルはその121番目の名前でミクロネシア連邦の『ナン・マドル』という海洋遺跡：世界遺産の名前だそうです。ちなみに、日本から提出された10の名前はいずれも星座名だそうです(コイヌ、ヤギ、ウサギ、カジキ、コト等)です。1年間に発生する台風の平均数は25個だそうですので5～6年で一巡するのですが、台風の名前だけに、大きな災害をもたらした台風は加盟国の申請を受けてリストから外してそれ以降使われなくなることもあるそうです。

ナンマドル接近もそうでしたが、台風の接近に備えて、交通機関は計画的運休を実施することが多くなりました。社会インフラを止めることで人々を台風の危険に曝すことが少なくなったと思います。しかし、病院は例外の一つです。稼働しているバスやタクシーを利用するなど、それぞれに工夫して出勤し検査に従事してくれ、24時間・365日検査体制・輸血製剤の取り扱い体制を維持できています。今回もそうです。毎年繰り返す台風の時には、懸命に、当たり前医療を支えているスタッフに感謝するばかりです。



《今号の紙面》

検査部技師長よりあいさつ	…p.1
鉄分検査室	…p.2
細菌検査室からお知らせ	…p.3
検査部からのお知らせ・編集後記	…p.4



鉄分検査室 第61回 「白いかもめ」から「紅白かもめ」へ 白いかもめ

885系「白いかもめ」は、平成12年(2000)3月11日のダイヤ改正で登場した。

「白いかもめ」は博多・長崎間をそれ以来走り続け、先日9月22日が最後となった。9月23日、西九州新幹線武雄温泉・長崎間69.6kmが開業し、在来線特急「かもめ」は「リレーかもめ」となり新幹線列車に「かもめ」の名称が継承された。

新幹線が開業すると在来線の鉄道風景が一変する。長崎本線は全線電化されていたが肥前浜・長崎間は非電化区間に変更となった。「リレーかもめ」は佐世保線に乗り入れ武雄温泉駅で新幹線「かもめ」とホームで相対し乗客の乗り換えが行なわれる。



「白いかもめ」 長崎本線多良・肥前大浦間

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

昭和4年(1929)鉄道省は鉄道利用客掘り起しのため列車の愛称を公募した。

結果は、1位「ふじ富士」、2位「つばめ燕」、3位「さくら桜」、4位「あさひ旭」、5位「隼隼」、6位「はやぶさ鳩」、7位「はと大和」、8位「かもめ鷗」、9位「ちどり千鳥」、10位「はやて疾風」といった結果となった。

その年東京・下関間を走る一等車・二等車編成の特別急行列車の1・2列車に「富士」の名称がつけられ、三等車みの編成の特別急行列車の3・4列車に「桜」の名称がつけられた。

昭和12年(1937)東京・神戸間に一等車・二等車・三等車編成の特別急行列車「鷗」が運行を開始した。その後戦況の悪化で昭和18年(1943)2月廃止となった。戦前の「鷗」の活躍は短期間であった。

戦後鉄道界は混乱・疲弊し、戦前の鉄道の水準に復するのに時間を要した。昭和28年(1953)3月15日京都・博多間に特急「かもめ」が運行を始めた。10年ぶりに「かもめ」の名称が復活した。

昭和36年(1961)10月1日のダイヤ改正でキハ80系気動車が投入され運転区間が京都・長崎、京都・宮崎に変更となり、「かもめ」が長崎入りした。その後運転経路の変遷後昭和50年(1975)3月10日の山陽新幹線博多乗り入れて「かもめ」は廃止となった。

翌昭和51年(1976)7月1日の長崎本線・佐世保線全線電化で小倉・博多・長崎間にエル特急「かもめ」として復活した。昭和55年(1980)10月1日のダイヤ改正で全列車博多・長崎間の運行となった。

「かもめ」の生息域は次第に西進しつつに9月23日の西九州新幹線開業で、武雄温泉・長崎間の西の端に限局することとなった。



「紅白かもめ」 西九州新幹線諫早・長崎間

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
西九州新幹線「かもめ」車両は、東海道・山陽新幹線を走る「のぞみ」に使用されているN700Sである。同じ車両ではあるが内装・外装とも大きく印象が異なっている。外装では白地の車体にJR九州のコーポレートカラーである赤い帯をまとっている。いわばこれまでの「白いかもめ」が、「紅白かもめ」となっている。目出度い配色である。これからの西九州新幹線の活躍を約束しているようである。



細菌検査室からお知らせ

いつも細菌検査にご協力いただきありがとうございます。

本日は検体提出についてのお願いを改めてご紹介させていただきます。

<血液培養ボトルの提出について>

・血液培養では2セット以上の複数セット採取が推奨されます。

(大人の場合、40 mL以上の血液採取で病原菌の検出率が90%を超えると報告されています。)

・1オーダーにつきバーコードラベルが2枚(1セット分)出力されます。

・ボトル1本につきバーコードラベルを1枚‘縦’に貼りつけて提出してください。横向きのバーコードは機械での読み取りが難しくなります。ラベルの向きにご協力ください。

<リジェクションルールについて>

リジェクションルールとは？

⇒不適切検体による検査結果のミスリードを防ぐために設けられているルールです。

例えば、

・未滅菌容器に細菌培養の検体を入れた場合、容器に付着している細菌が混入する可能性があります。結果のミスリードにつながります。

・CDトキシンGDH検査では便の外観が普通便(固形便)の場合は不適切検体とみなし、検査を受け付けていません。軟便、下痢便、水様便等が検査に適した検体となります。

・唾液中には口腔内常在菌が多数含まれています。唾液様検体が喀痰として提出された場合には病原菌等を見つけ出すことが困難になります。

上記に該当する場合は検体の取り直しをお願いしています。

検体提出に関する詳しい情報は検査部院内ホームページ内にある「検査の手引き」に記載されています。その他にも、検査部院内ホームページには検査に関する様々な情報が記載されています。是非ご活用ください。

ご不明な点は細菌検査室(5757)までお気軽にご連絡ください。



検体検査室受付よりお知らせ

★検体提出時のお願い

- ・急ぎの検体は出来るだけ直接受付窓口にご持参ください。
- ・採血後の検体は速やかに提出してください。(全血放置が値に影響する項目があります)

★問い合わせについて

電子カルテ上にてオーダー可能な項目の一覧を院内HPに掲載しています。

外注検査も含めた採取容器や検体量・所要日数・測定法などを確認できます。

院内HP → 検査部 → 「検査項目」 → 「検査項目一覧」

また、採血管一覧も写真付で掲載しておりますので、ご活用下さい。

院内HP → 検査部 → 「採血管一覧」 → 「院内検査」・「外注検査」

※最新版の管理を心掛けておりますが、新規項目や変更の反映が遅れることがあります。

急な変更等は検査通報やUsersメールでもお知らせすることがありますので、ご確認をお願いいたします。

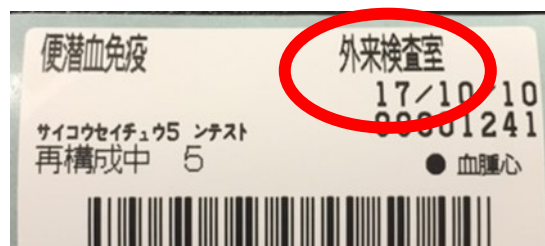
★検体の提出先について

検体の提出先は検査内容によって異なります。

血液検体は検査部の検体検査室以外にも細菌検査室や輸血部・薬剤部・遺伝子細胞療法部などの提出先があります。また、尿検体や体腔液(胸水、腹水等)は検体検査室以外に外来検査室・細菌検査室・病理部などがあります。

検体提出場所を間違えて提出すると、検査の遅延や紛失につながる恐れがあります。

提出場所はラベルの右上に記載されていますので、提出する際はご確認をお願いいたします。



検体検査室・受付(5771)

編集後記

コロナ禍もだいぶ落ち着いてきました。それに伴い学会が現地で開催されることが多くなり、学会会場は以前に増して多くの拝聴者で埋め尽くされている印象です。皆さんも対面での開催を望んでいて活発な討議が繰り返されています。先日学会に参加するため、鉄分検査室に倣いJR西日本の50歳以上、5日間の安い周遊券での旅をしました。博多から新大阪まで新幹線、金沢まで特急サンダーバード、金沢～富山は新幹線で6時間かかりましたが、車窓(琵琶湖、北陸トンネル、日本海)を楽しみながらのんびり旅です。今回気付いたのは新大阪～京都間の新幹線はJR西日本ではないことでした。ほとんど寝ていましたがたまにはJRののんびり旅お勧めします。

内海健